

◇『広報プロモーターの仕事とは?』

理事 木田洋一

1月のセミナーの講師だった岡田さんは自分の仕事を「広報プロモーター」だと言っていました。

広報したい企業から依頼を受け、商品に関する情報をその企業から詳しく聞き取ります。そしてメディアが使いたくなる情報にして提供し、さらにメディア側と一緒にどうしたら面白くなるか、興味深い情報になるかを考え、最終的にメディアに乗せる仕事です。言わば企業とメディアの仲立ち役です。確かに英語での「promote」は、昇進させる、促進する、売り込む、興業を主催するなどの意味があり、特に「売り込む」などは正にこの仕事ことを指していると思います。問屋などの仕事も、生産者と小売りを繋ぐという点ではよく似ています。バブル崩壊後の一時期やIT化が始まった時期などで、問屋、商社など中間業者の不要論が出てきたものの、現実には商社も問屋もしたたかに生き残っています。何故なら、ニーズのマッチングをするという仕事は、両方の目線を合わせ持たねばならぬ難しい仕事で、これが無くなると生産者も小売りも困るからです。

では、広報ではどうでしょうか?

広報部門としても専門のプロ、広報プロモーターに頼むというのが一番手っ取り早く、それは言わば問屋、商社に頼むのと同じことです。そんなお金が無いというなら、広報担当者が広報プロモーターの役割をやるしかないのですが、これは生産者が直接小売店に売り込みに行くようなもので、大変な手間と時間がかかり簡単にはうまくいきません。つまり一人のプロがやっている仕事を広報担当が担うということは、時間も労力も工夫もこれまで以上に必要だということです。このことを経営者も社内も理解してくれないと、成果は生まれません。

広報担当自身も、商品をメディアに露出させたい自社の思惑と、面白コンテンツで視聴者・読者を集めたいメディアの思惑を繋ぐ力が求められます。会社側、メディア側双方の立場に立って考える工夫がないと、一方的なりリリースだけを流して無駄な労力を使うことになります。

つまり広報の仕事は、会社側、メディア側双方の異なる立場を取り持つ非常に難しいものだと思います。このことを、社長も社内も理解しないと広報担当者だけの努力だけでは、成果は得られないのです。

◇『世界トップランナーに期待』

代表理事 竹原信夫

◎今はSDGsが注目

取材は時代を反映します。その時、その時で取材が偏ります。人材派遣、太陽光の販売、介護サービスなど、一時期、紙面がこんな仕事で賑わいました。

今はSDGsですね。どの紙面にもSDGsの文字が踊っています。経営者さんの自慢も、売り上げや利益の数字、シェアよりも、社会貢献にどんな取り組みをしているか。熱心に話されます。

◎ソフト関連は難しい

仕事の中身も、従来はモノづくり関連が中心でした。技術は難しいですが、部品の精度や強度など比較的わかりやすい内容が多くありました。

しかし、最近はデジタル化が進み、ソフト関連の内容も増えています。ボクが理解するのも大変ですが、その内容をなかなか分かりやすく説明できません。



### ◎倉庫が工場のような本社

先日は都心部から少し離れた郊外にある会社取材しました。駅からも遠く、外から見ると、倉庫か工場にしか見えません。事務所の雰囲気は一切ありません。

会社の前では、トラックの横でスタッフさんが、トントンカンカンと材木を叩いておられました。荷物用のエレベーターで、社長さんのおられる部屋に案内してもらいました。

### ◎ビジュアル制作会社

社長さんは、町工場系とはちょっと雰囲気が違います。ファッションもなかなかオシャレです。お聞きすると、フリーランスのカメラマンだったそうです。

何をされている会社、想像できません。ついつい、「社長さんところは何をされている会社ですか?」と、単刀直入に聞いてしまいました。その答えは、「ビジュアル制作会社ですかね」と、おっしゃいます。

### ◎背景を提供する会社

うーん。ビジュアル。視覚に訴える制作会社? まだ分かりづらいです。さらに突っ込んでお聞きすると、商品などを引き立たせるビジュアル制作会社ということでした。

アピールしたい商品を“映え”させる、背景などを提供する会社でした。大阪と東京にスタジオを持っておられ、取材に訪れた本社もスタジオの1つでした。

### ◎商品が引き立たせる

大阪はセットを組み立てて、撮影しやすい空間をつくれます。一方、東京はハウススタジオになっており、オシャレな内装やトレンドのインテリアを導入されています。

そこで、新商品の撮影をされます。背景を変えることで、商品が引き立ち、映えることになります。ようやく、ビジュアル制作会社のイメージが湧いてきました。

### ◎CM撮影のスタジオ

今はビジュアルな時代です。商品の機能だけでなく、商品を引き立たせる、映える空間を演出することが重要なテーマでもあります。

そこにいち早く目をつけて、スタジオを運営されておられました。CM撮影だけでなく、テレビドラマの撮影などにも利用されるそうです。

### ◎メタバースの世界を表現

今まであまりなかったビジネスです。近未来、アバターを使ったメタバースなどが新しいビジネスになろうとしています。

その際にも、仮想空間のビジュアルも重要な要素になりそうです。画像合成技術、3DのCG技術もお持ちで、メタバースの世界を表現できる会社です。

### ◎時代の変化スピードアップ

今はまだまだ無名の隠れた会社です。でも、5-10年後にはメタバースの世界でも有名な会社になっている可能性もあります。

時代の変化はどんどんスピードアップしています。まだまだ新しい会社が出てくるでしょう。モノづくりに続く世界トップランナーの出現を期待したいです。